



第9回 田村・沖宿エリアの見どころ



知って楽しむ! 筑波山地域ジオパーク

筑波山地域ジオパークには、地形や地質の見どころが集まったエリア(ジオサイト)が26か所あります。今回はそのうちの1つ、田村・沖宿エリアをご紹介します。

田村・沖宿エリアとは

田村・沖宿エリアは市の東部、霞ヶ浦の入り江である「土浦入り」を取り囲む田村町・沖宿町の両地区からなります。霞ヶ浦湖岸の低地では、日本一の生産量を誇るレンコンが生産されています。一面に広がるハス田の下には、谷から海へと変わった霞ヶ浦の歴史が隠されています。

日本一のレンコン生産を支えるジオ

約2万年前の最終氷期には、海面が今よりも120mも下でした。霞ヶ浦はまだなく、谷が削られて川が流れていました。氷期が終わって海面が上昇すると、深い谷に海が入り込み、現在の霞ヶ浦から利根川下流域が一続きとなった入り江ができました。最も上昇した時で現在より2~3m高かった海面は、しだいに低下し、霞ヶ浦は海から湖に変化しました。

このように、レンコンが作られている霞ヶ浦湖岸の低地は約2万年前には谷で、約7千年前には波打ち際の浅い海底だったところでした。湖岸の低地には、かつて谷や海であったところに粘土が堆積していることから、水がたまりやすく水田やハス田に適しています。日本一のレンコン生産は、大昔に堆積した粘土に支えられています。

レンコン栽培の歴史

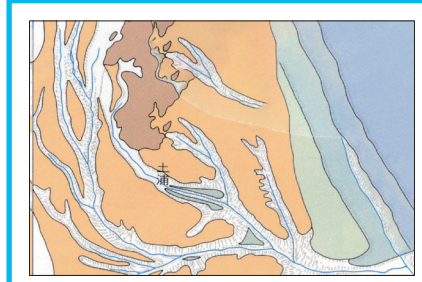
霞ヶ浦湖岸の低地は長く水田として使われてきましたが、減反政策によって、米の代わりにレンコンを作るようになりました。レンコン作りは昭和30~40年代から本格化し、今では日本一の生産地となっています。

もっと知りたい! という方へ

筑波山地域ジオパーク ホームページはこちら

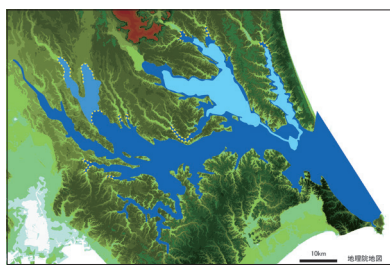


お問い合わせ
 商工観光課 (☎826-1111 内線2705)
 上高津貝塚ふるさと歴史の広場 (☎826-7111)



(井内・斎藤 1993) アーバンクボタNo.32より

約2万年前の霞ヶ浦
 最終氷期には海面は現在よりも約120m低かった。霞ヶ浦はまだなく、谷が深く削られて川が流れていた。



(一木 2019)

約7千年前の霞ヶ浦
 氷期が終わって海面が上昇すると、深い谷に海が入り込み、現在の霞ヶ浦から利根川下流域が一続きとなった入り江ができた。



(農研機構 2013)をもとに作成

現在の霞ヶ浦(黄色の部分ハス田)
 現在より2~3m程度高かった海面は次第に低下し、霞ヶ浦は海から湖へ変化した。かつて谷や海だった湖岸の低地は、ハス田として利用されている。

